

＜目次＞	P1…新年の挨拶	P2～4…第8回学術大会	P5～7…参加報告	P8…失語症者のつどい
	P9…県士会会長会議報告	P10～11…理事会報告・各局からのお知らせ		P12…編集後記

新年の挨拶

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長 内山 量史
(春日居サイバーナイフ・リハビリ病院)

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。2016年が皆様にとって素晴らしい1年になりますよう心からお祈り申し上げます。2014年4月1日に一般社団法人に移行して2年が経過しようとしておりますが、会員のご協力および理事のご尽力により当会の活動はより一層充実した内容となっております。改めて当会の活動を支える会員の皆様に感謝申し上げます。また、一般社団法人山梨県理学療法士会、一般社団法人山梨県作業療法士会とは良好な連携と信頼の下、訪問リハや地域支援などのいくつかの事業を合同で展開してきました。今年度よりそのような合同事業を効率よく展開できるようにと「山梨県リハビリテーション専門職団体協議会」(以下、協議会)を設立させ、8月から活動を開始したばかりです。この協議会は合同学術大会の実行委員会の他に訪問リハ実務者研修会、災害対策、地域支援事業、特別支援教育といった委員会で組織されます。初代の協議会会長は当会副会長の中村晴江先生が務めます。これからのリハビリテーション専門職にとって多くの重要な事業が展開されますので積極的な参加をお願いいたします。



昨今の重要な課題である介護予防事業や地域ケア会議への参画を含めた地域包括ケアへの対応については協議会の地域支援事業等推進委員会を中心に広報活動や講習会を展開していますが、地域での言語聴覚士の認知度は低いままです。加えて失語症等のコミュニケーション障害者への理解不足により、地域で暮らすコミュニケーション障害者が利用しやすいコミュニティの創設や安心して生活できるために欠かせない理解者の確保などといったコミュニケーション環境は十分ではありません。今後、これらの事態に対して介護支援専門員や介護サービス提供事業所、市町村等を対象に講座を開催するなど地域への積極的な働きかけが急務だと考えております。さらには地域を支える人材の育成については、日本言語聴覚士協会・日本理学療法士協会・日本作業療法士協会

で組織する「リハビリテーション専門職団体協議会」(以下、3協会)でも協議され都道府県士会へ研修プランが提示されております。残念なことに言語聴覚士はこれまでに地域包括ケアや介護予防に関する研修プログラムが存在せず、理学療法士や作業療法士と比べ基本的な講座の履修もなされておられません。次年度には3協会が勧める地域リハビリテーション活動支援推進の人材育成プログラム(DVD研修6講座)を開講いたします。協議会および県主催の講演会への参加とともに多くの会員に履修して頂き、地域へ出る際の質の担保にご協力をお願いいたします。

今年の干支の「申(さる)」は「伸ばす」という意味があり、「草木が十分に伸びきった時期で実が成熟して香りと味がそなわる時期」だと言われております。当会は今後も言語聴覚士の技能と資質の向上、言語聴覚療法の啓発や普及・発展のために成長をしていきます。今後とも県士会活動にご理解をいただき、積極的な参加をお願い申し上げます。

多くの会員が自身の知識、技術、人間性の“成熟”に向けて努力する一年であることを祈念いたします。

第8回学術大会を終えて

大会長 中村 晴江

平成27年11月22日山梨大学医学部キャンパスにて、開催いたしました一般社団法人山梨県言語聴覚士会第8回学術大会は、天候と多くの参加者に恵まれ、また多数の方々のご支援とご協力をいただき、盛会のうちに終了することができました。

本大会のテーマ『鍛える!!チーム医療で輝くSTの専門性』を具現化するプログラムとして、初めて開催いたしました教育講座では、「摂食嚥下機能」「高次脳機能障害」の2領域について、臨床力の礎となる内容から明日から使える臨床のスキルについてお話しいただきました。2会場での同時開催でしたので、聴講できなかった講座については、後日配布いたします記録集で、そのエッセンスだけでも味わっていただければ幸いです。また、一般口演では、活発なご討議をいただき、明日からの臨床に繋げていく多くのヒントを得ることができました。

さらに医療ジャーナリストの福原 麻希先生による特別講演「チーム医療はもっと進化できる!」では、チームメンバーが目標・情報を共有した上で、個々の専門性に沿った行動を行い、サポーターに連携することが重要であること、チーム医療を進めていく上での課題、マインドセットの重要性をわかりやすく、また実例を通してお話



いただきました。今大会が、言語聴覚士として、より質の高いスキルに裏打ちされたアイデンティティーを確立し、新たな進化の第一歩を踏み出す場となりえましたら幸いです。

最後に、ご多忙な中、査読や座長をお引き受けいただきました先生方、ご参加いただきました皆様、企画・運営にご協力いただきました県士会及び実行委員の皆様から感謝とお礼を申し上げます。

実行委員長 赤池 洋

平成27年11月22日(日)、山梨大学医学部キャンパスにて一般社団法人山梨県言語聴覚士会第8回学術大会が開催され、80名を超える会員の皆様にご参加を頂き、盛況のうちに終えることができました。誠にありがとうございました。今大会は中村晴江大会長のもと、新しい試みとして「教育講座」を設け、各専門領域で活躍されます先生方より、臨床に繋がる実践的な内容を聞かせて頂きました。また、特別講演では福原麻希先生より「チーム医療」についてご講演を頂き、現場での状況を振り返りながら、チーム医療領域に新たな道筋を切り開く貴重な内容を聞かせて頂きました。

今大会は25名の実行委員で構成し、多くの病院の先生方と共に一大イベントの企画・準備・運営をやり遂げたことは、私だけでなく実行委員の皆様にとっても大きな自信を得ることができ、また次年度以降の学術大会をより一層発展させる貴重な経験ができたと思います。ご協力を頂きました実行委員の皆様ありがとうございました。

最後に、今大会を成功裏に終えることができたのは、内山会長をはじめ赤池副会長、理事の先生方、そして快く引き受けて下さいました講師や座長、査読委員の先生方にお力添えを頂くことができたからだと思います。心より感謝申し上げます。



一般演題 発表者

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 安富 朋子

今回「当院の経管栄養患者における経口摂取獲得の傾向について」発表させていただきました。改めて、当院の実態をまとめることで、自分自身が日々臨床で推測しながら行っていたことの傾向を確認することができ、摂食嚥下障害者の方への考え方や見方を再度学ぶきっかけとなりました。

情報収集、評価指標に関しても不十分な点が多くありましたが、職場の先輩方や査読の先生方、質疑応答を通して、新たな着目点にも気づくことができ、自身のスキルアップにもつながりました。また、根拠に基づいた臨床の重要性、疑問を解決する喜びも身を持って実感することができました。

今までの発表の中で一番大きな舞台であり、とても緊張しましたが、どうしたらよりわかりやすく伝えられるかなど、プレゼンテーション能力の大切さも学ぶことができました。とても貴重な経験となりました。今後も日々、新たな疑問を見つけながら、これを第一歩として、さらに精進していきたいと思います。



特別講演 参加者

健康科学大学リハビリテーションクリニック 梶原 さわか



今回、特別公演として「チーム医療はもっと進化できる!」というテーマで医療ジャーナリストの福原麻希氏のお話を伺うことができました。福原氏はチーム医療推進協議会のアドバイザーとしてもご活躍されているということで、その立場から言語聴覚士という職種をどのようにみているのかという点においても大変興味深い内容でした。

医療機関や介護の現場において、様々な「チーム」が存在しています。「チーム」「委員会」といった名称のあるものはもちろんですが、名称はなくてもチームとして機能しなければならない場面は数多くあるかと思います。私も数多くのチームに所属していることになりましたが、これらがチームとして

機能しているかと問われると、答えに困ってしまうのが現状です。特に、講演の中で行われた「チーム医療のあるある悩み あなたのチームはどのレベル?」のチェック課題では、心に突き刺さる問いがいくつもありました。

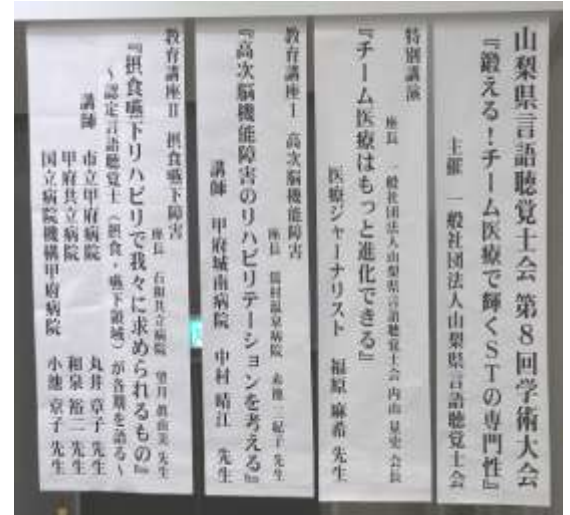
チーム医療をさらに進化させていくためにも、まずは、個人としてできそうなことから始めていくことが大切だと思います。私個人としては、自分でできることを探していくという当事者意識を高めるとともに、他のメンバーのことをよく知ることから始めていきたいと感じる機会となりました。



教育講演Ⅰ（高次脳機能障害）

巨摩共立病院 原田 史佳

教育講演Ⅰに参加し「自己認識」と「行動変容」がキーワードとして印象に残りました。また「自己認識」から「自己効力」ということばが連想されました。自己効力とは予測される状況や目標とする行動について、自信をもって遂行出来るかどうか、判断や気持ち、考え方のことです。高次脳機能障害者が社会へ復帰し注意障害や遂行機能障害が残存したとしても、自己認識（＝自己効力）があれば、それらの行動変容にも繋がるのではないかと・・・じっくりと深く考える機会を得ました。心理学の分野にも視点が広がりとても有意義な講座でありました。



教育講演Ⅱ（摂食嚥下障害）

竜王リハビリテーション病院 石川 明日香

第8回学術大会では初めて2領域の教育講演が行われ、私は摂食嚥下障害へ参加させていただきました。「摂食嚥下リハビリで我々に求められるもの」のテーマのもと3名の認定言語聴覚士の先生方からお話をいただきました。臨床の中で、本人やご家族から最後まで口から食べたい・食べて欲しいとの希望を伝えられ悩むことが多くあります。言語聴覚士としてリスク管理など行いながらもその人らしい最期を迎えられるよう対応していくスキルが必要だと改めて感じる事が出来ました。

初参加

恵信りほく病院 芦澤 瀬奈

平成27年11月22日、山梨大学医学部附属病院臨床大講堂にて第8回学術大会が開催されました。学術大会へは今回初めて参加させて頂き、口演発表をはじめ、教育講座やチャリティーバザーなど、一日を通して内容の濃い大変有意義な体験が出来ました。特に失語症例における発表では、障害や症状について考察するうえでの着眼点や関わり方などを知ることができ勉強になりました。言語聴覚士として今後の臨床に生かしていきたいと思っております。

実行委員



山梨厚生病院 杉山 順一

今回が自分にとって初めての学術大会であり、実行委員としても関わらせて頂きました。実行委員の一員として今大会を振り返ってみると、皆様と一緒に作業を進める中で、短期間ではありましたが、互いに連携を取りながら開催までこぎつけるにはチームで取り組まなければ困難なことが多かったと感じました。今大会は、大会長の中村先生をはじめ実行委員長、実行委員で構成された一つのチームがあったからこそ成功だったと感じています。この経験を活かし他職種と連携を密に図りながら、より良いリハビリを提供していきたいと思っております。

参加報告

第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会大会に参加して

巨摩共立病院 市川 奈弥

2015年9月11・12日、国立京都国際会館で開催されました第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会大会に参加させていただきました。今回は6300名を超える方の参加との報告がありました。医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士・PT・OT・STなど多職種が集い、嚥下障害について多方面の視点からの症例報告、新たな研究内容などの報告がありました。教育講演の中でも、海老原覚先生の『誤嚥性肺炎最新発症メカニズムと嚥下ニューロリハビリテーション』を聴講しました。肺炎治療は対処療法だけでなく、予防リハが重要であり、予防・改善には、大脳皮質の刺激が重要で、食べることで強化される。もっとも大切なことは、楽しい・おいしい食事であり、おいしい食事の要素について個々に合わせて考える必要があるとのことでした。日々、患者さんへ実施している嚥下評価の視点に、楽しい・おいしい食事を提供するという視点が後回しになっていないだろうかと思感しました。

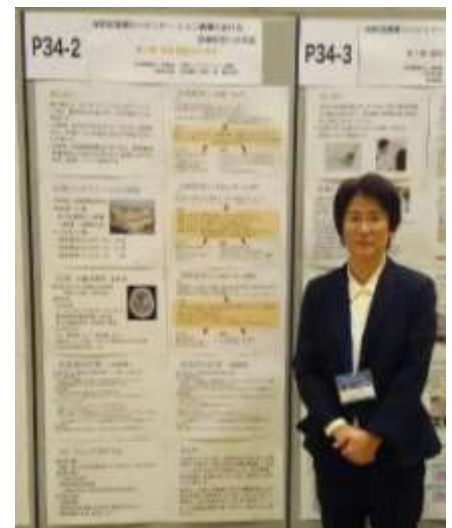
また全体を通して、研究途中の発表も多くまだまだ発展していく分野であることを感じ、すべてがとても興味深く、良い学びとなりました。今後も摂食嚥下に携わる専門職としてチーム作りに取り組んでいきたいと思えます。

「リハビリテーション・ケア合同研究大会 神戸2015」に参加して

山梨リハビリテーション病院 萩原 由香

10月1日～3日、「リハビリテーション・ケア合同研究大会 神戸2015」に参加させていただきました。神戸を訪れるのは、「阪神・淡路大震災」が起きた1995年以来20年ぶりでした。見事に復興している光景を目前にしても、当時のありさまが思い出され、どちらも事実であることを受け入れるのに正直少し戸惑いでしたが、ポートタワーからの夜景を眺めてみて、「よくここまで・・・」という思いがこみ上げてきました。

今回の研究大会のテーマは、「ふたたび自分らしくいきいきと暮らせるように—2025年に向けてそれぞれの立場から一緒に考えよう—」というものでした。講演などを聴講し、半固形化栄養法や完全側臥位法を取り入れた症例紹介が特に印象的でした。半固形化栄養法の紹介では、その利点と注意点がわかりました。完全側臥位法により、早期に直接訓練が始められる可能性があることなどを学びました。また、今回、初めてポスター発表という貴重な経験をさせていただきました。上司の指導の下、不安なく臨むことができました。準備にあたり、担当させていただいた患者様のリハビリについて振り返ることができ、全体的な把握や他職種との情報交換が不足していたことを確認できたのも非常に勉強になりました。



日本音声言語医学会学術講演会参加報告

山梨大学医学部附属病院 前田 恭子

平成 27 年 10 月 15 日～16 日に愛知県産業労働センターで開催された第 60 回日本音声言語医学会学術講演会にて口述発表を致しました。タイトルは「当科における voice prosthesis 変更症例の検討」で、座長はこれまで論文等を参考にさせていただいている県立広島大学の土師先生と分かった時にはとても嬉しく発表が楽しみでした。内容は喉頭全摘出後の音声再建術において、Provox2 から次世代の Provox Vega への変更における音声評価や経過を報告しました。発表の動機は次世代 prosthesis に変更したにも関わらずデバイス寿命は短縮傾向を認め、患者さんから不具合の訴えも多いため、その現状を報告したいと考えたからです。質疑応答で座長から「不具合の原因は患者側にあるのか」と質問いただき、発声しやすくするために弁の開閉が容易になったことでリークもしやすくなりデバイス寿命に影響しているのではないかと、さらに本邦で採用されている prosthesis の径だけでは呼気流量が合わない例もあるのではないかと自分が最も伝えたい内容を指摘いただき大変有り難かったです。今後もさらに研究を続け、患者さんの声を伝えていきたいと思っております。



第 37 回国立大学リハビリテーション療法士学術大会参加報告

山梨大学医学部附属病院 赤池 洋

第 37 回国立大学リハビリテーション療法士学術大会が平成 27 年 10 月 31 日に東京大学本郷キャンパス内の山上会館にて開催されました。国立大学リハビリテーション療法士協議会は 1976 年 9 月に発足され、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士といったリハビリテーション専門職が集う組織となり、現在では国立大学病院に所属するリハビリテーション専門職は 480 名を超える会となっています（理学療法士 327 名、作業療法士 109 名、言語聴覚士 53 名）。学術大会は毎年開催され、私自身も今回初めて発表者として参加させて頂きました。



発表内容は現在研究として取り組んでいます「頰椎前方固定術後の嚥下障害について」を報告させて頂きました。整形外科領域の内容であるため、他職種からの質問があり多くの収穫が得られた発表であったと思います。また、国立大学病院の言語聴覚士同士での交流を図る機会もあり、県内だけではなく全国の先生方とも今後情報交換や連携を取っていく必要性を感じました。

大学病院は、高度医療技術の開発を進めることが社会的使命の一つです。山梨県唯一の大学病院で働く言語聴覚士として臨床だけではなく、教育や研究に向けて今後も日々努めていきたいと思っております。

第 39 回高次脳機能障害学会学術総会発表報告

甲州リハビリテーション病院 元木 雄一郎

平成 27 年 12 月 10、11 日に東京都のベルサール渋谷ファーストで行われた第 39 回日本高次脳機能障害学会学術総会にて口述発表を行いました。

今回は、「著明な記号素性錯語を呈した非失語性呼称障害の一例」というタイトルで、非失語性呼称障害の患者さんの呼称場面における発話特徴と精神症状の経過について報告しました。発表当日まで、抄録の作成やスライドの作成、また症例の言語症状の解釈等について、様々な方にご助言やご意見を頂きました。その中で症例の症状や障害構造の解釈について深めることができました。また当日会場で意見交換を行うことができました。様々な先生方からご意見や質問を頂き、多くの新たな視点に気づくことができました。スライドの見せ方や質疑応答など課題はたくさん見えましたが、すごく充実し大変貴重な経験となりました。

今回、得たことを研究や臨床に活かしていきたいと思います。そして言語聴覚療法の発展や患者さんの回復へ還元していきたいと思います。



平成 27 年度第 3 回学術部講演会参加報告

石和温泉病院 林 正裕

今回“発声発語障害の臨床～Dysarthria を中心に～”の題目で開催された、第 3 回学術部講演会に参加し、呼吸・発声機能へのアプローチの重要性について、考えを改める機会となりました。

呼吸訓練では、機能的なアプローチだけでなく、腹帯を使用するなど補装的なアプローチ方法も数多くあると話があり、自分に欠けていた視点からの介入方法を学ぶことができました。演習では、実際の患者様の発話サンプルを聴き、聴覚心理的評価を行いました。同じ患者様でも、評価者による差があり、正確な評価・訓練プログラムの立案のために、“耳を鍛える”必要性について改めて痛感しました。

今後、院内の勉強会などで、聴覚的評価の定期的な検討会を企画していきたいです。また、今回学んだ内容を、技術として活かせるように努力をし、臨床の幅を広げることができたら良いと思います。



「第20回山梨県失語症者のつどい記念大会」

森のデイサービス さんりん舎 向 亜希香

今年で20周年を迎えた「山梨県失語症者のつどい」が、平成27年11月28日に開催されました。この記念の会に、県士会から多くの先生方にご協力いただき、ありがとうございました。

今回は開催スタイルも新しく、会場はぶどうの紅葉が一面に眺められるレストラン、昼食はビュッフェ、というお洒落な雰囲気でした。長年この会の発展にご尽力頂いた方々の表彰があり、初めてお越しくださった後藤斉県知事はじめ、PT・ST県士会長とOT県士会副会長他、来賓の皆様も一緒に参加者全員での記念撮影があり、節目の年を祝いました。もちろん恒例の友の会発表やコミュニケーションワークショップなどもあり、当事者の方々の活躍には大きな拍手やたくさんの笑い声が溢れ、会場はいつもの賑やかで温かい雰囲気に包まれました。参加者は100名を超え、思い出に残る、素晴らしい記念大会になりました。



ことばの障害をもって生活する当事者の皆さんやご家族の“大変さ”はもちろんあるのですが、皆さんの笑顔からは充実感や逞しさが感じられ、いつもこちらが元気づけられてしまう程です。実行委員として参加するようになって12年目、いつの間にかこの会の運営に携わることが私のライフワークとなり、毎年の楽しみとなっています。

今年のテーマ、「声出そう！励まし合って20年 つなげよう！仲間の和」に込めた思いを次の10年へ、つどいが多くの仲間とつながっていくことを願っています。



平成27年度都道府県士会会長会議報告

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 副会長 赤池 三紀子



去る11月7日(土)に朝日生命大手町ビルで、今回より名称変更された都道府県士会会長会議が開催されました。まず、深浦会長の挨拶、各部・委員会からの報告(以下①～⑤に報告)があり、その後「地域リハビリテーション活用支援事業推進のための人材育成について」の説明・質疑応答が、約2時間にわたって行なわれました。

- ①平成28年度診療報酬改定の要望書を3協会に10月19日に提出した。主にリハビリの提供体制と職名追記等に関する内容であった。(医療保険部)
- ②研究助成制度認知症実態調査のためのアンケート回収率が少ないため、2週間延長した。回答トップは福島県の52件、当県は19件、7県が0件。(学術研究部)
- ③基礎講座講師養成研修会は平成28年度で終了し、平成29年度以降は各県士会で講師の養成を実施し、データは協会が配布。(生涯学習部)
- ④今年の協会との共催での言語聴覚の日イベント開催士会は福岡・埼玉県、来年は岡山県。(広報部)
- ⑤大規模災害リハビリテーション支援関連協議会(JRAT)活動の経過報告。(災害対策部)

この後、介護保険部より、リハビリ専門職に期待される地域ケア会議に貢献できるための人材育成研修事業の概要が説明されました。研修制度の根幹である推進リーダー(仮)の育成研修については、3協会共通研修となり、ST協会ではPT協会運用中のシステムを参考に作成したDVD研修、導入研修、士会指定事業の参加の3条件が確定しています。この事業では、すでにPT士会への導入研修に参画している県、地域ケア会議へ参画している県、3士会合同事業として基金をもらっている県など全国で足並みは異なるものの県士会が主体となって早急に取り組むべきことを認識しました。来年度、3協会はリハビリ専門職が行う介護予防市町村支援事業に関するリーフレットについて山梨県版を改変して活用することも決まりました。



今回の会議は、全国の会長がこの地域支援事業に今後のリハビリ専門職の生き残りをかけ、市町村相手に主体性を持った活動を展開することを確認できたいい機会になったと感じました。地域包括ケアへの貢献を期待されるリハビリ専門職は実質的な結果を出せるよう、今後とも協会と当会の事業へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

◆◇◆理事会・各局より◆◇◆

理事会報告

【平成 27 年度 第 5 回理事会議事録】

日 時：平成 27 年 8 月 26 日 18 時 40 分～20 時 25 分
場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
議 長：内山量史

出席理事：内山量史・赤池三紀子・中村晴江・赤池洋・和泉裕二・小池京子・佐々木蘭子・高橋正和・藤巻千春・保坂みさ・矢澤史帆・河西祐子

出席監事：深澤有里、望月眞由美

欠 席 者：梶原さわか、武井徳子、吉澤由香（以上理事）

<協議事項>

1. 県士会 NEWS 第 33 号企画案が承認された。
2. 第 8 回学術大会で摂食嚥下障害と高次脳機能障害の教育講座を実施することが承認された。
3. 「地域ケア個別会議（模擬研修会）」に関するモデル研修の出席者が承認された。

<報告事項>

1. 各部の活動が資料に基づき報告された。
2. 3 士会合同意見交換会、甲府市在宅医療・介護連携推進会議代表者会議への出席が報告された。
3. 東日本大震災福島復興支援事業について説明された。
4. 第 8 回学術大会実行委員会より、演題募集期間延長の報告とプログラム案が報告された。
5. 認知症サポーター 養成講座、救急救命研修会 Basic コースの開催等が報告された。

【平成 27 年度 第 6 回理事会議事録】

日 時：平成 27 年 9 月 18 日 18 時 45 分～21 時 20 分
場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
議 長：内山量史

出席理事：内山・赤池三・中村・赤池洋・小池・梶原
佐々木・高橋・保坂・吉澤・河西

出席監事：深澤、望月

欠 席 者：和泉、武井、梶原、保坂（以上理事）

<協議事項>

1. HP の操作マニュアル（案）が承認された。
2. 豪雨で被災した茨城県言語聴覚士会への義援金募集を行うことが決定した。

<報告事項>

1. 各部の活動が資料に基づき報告された。
2. 3 士会地域支援事業等推進委員会、第 34 回関東甲信越ブロック理学療法士学会開会式出席等について報告された。
3. 山梨県リハビリテーション専門職団体協議会について報告された。
4. ST 協会代議員選挙について、当士会より来年度の選出を進めることが報告された。

【平成 27 年度 第 7 回理事会議事録】

日 時：平成 27 年 10 月 23 日 18 時 35 分～21 時 10 分
場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
議 長：内山量史

出席理事：内山・赤池三・赤池洋・和泉・梶原・小池
佐々木・高橋・矢澤・河西

出席監事：深澤、望月

欠 席 者：武井、中村、藤巻、吉澤（以上理事）

<協議事項>

1. ST 協会 代議員選挙に、赤池副会長が立候補することが承認された。
2. 県士会 NEWS 第 34 号企画案が承認された。

<報告事項>

1. 各部の活動が資料に基づき報告された。
2. 関東・東北豪雨義援金を茨城県言語聴覚士会へ寄付したことが報告された。
3. 第 1 回地域支援事業等推進委員会合同研修会、東日本大震災復興支援 福島県復興支援事業、山梨県民間病院協会 PT・OT・ST 部会 平成 27 年度研修会、訪問リハビリテーション協議会実務者研修会の開催等について報告された。

【平成 27 年度 第 8 回理事会議事録】

日 時：平成 27 年 11 月 27 日 18 時 50 分～21 時 15 分
場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
議 長：内山量史

出席理事：内山・赤池三・中村・赤池洋・和泉・梶原
小池・佐々木・高橋・保坂・矢澤・吉澤・河西

出席監事：深澤、望月

欠 席 者：武井、藤巻（以上理事）

<協議事項>

1. 賛助会員の山梨リオン補聴器センターの HP 掲載が承認された。
2. 県立図書館への寄贈書籍 2 冊が決定した。
3. 在宅医療チーム形成促進のための視察研修（山梨県看護協会）への参加者が承認された。
4. 在宅療養者支援検討会議委員が承認された。

<報告事項>

1. 各部の活動が資料に基づき報告された。
2. 平成 28 年度県施策及び予算編成に伴う要望事項を自由民主党山梨県支部連合会に提出したことが報告された。
3. 第 8 回学術大会、第 20 回山梨県失語症者のつどいの開催報告がおこなわれた。

書 記：江川 恵、安富 朋子
議事録作成：河西 祐子

各局からのお知らせ

事務局

<総務部>

- ・平成27年度ST代表者会議を1月15日（金）に開催しました。多数の方にご出席いただき情報交換を行い、親睦を深めることができました。
- ・平成27年5月～12月の会員動向についてお知らせします。
会員数：正会員137名、賛助会員 3団体
（平成27年12月末現在）

新入会員：西澤 伸先生（巨摩共立病院）

賛助会員：山梨リオン補聴器センター

所属変更：小松 富美子先生（国立甲府病院）

改 姓：保坂（小山） 莉依先生
佐藤（山田） 萌先生

退 会：小林 加苗先生（竜王リハ病院）

栗原 拓朗先生（国立甲府病院）

※名簿掲載事項に変更がありましたら、総務部阿西まで郵送またはFAXでご連絡下さい。

届出用紙は県土会ホームページからダウンロードできます。

<財務部>

平成27年度の会費は全会員に納入していただきました。皆様のご協力に感謝致します。

社会局

<職協部>

- ・介護予防市町村関連事業の中でリハビリ専門職の活用が始まっている中、言語聴覚領域には県土会代表として会長、副会長の他に数名の理事も以下の会議に参画しています。
- ①甲府市在宅医療・介護連携推進会議ワーキンググループ 1,2
- ②地域リハビリテーション活動支援事業手引書作成委員会
- ③「地域ケア個別会議（模擬研修会）」に関するモデル研修会（11月29日）
- ④甲斐市「中北地域ケア個別会議」（11月30日）
- ⑤山梨県PT・OT・ST 介護予防研修会（12月19日）
- ・地域リハビリテーション従事者研修会が12月1日にびゅあ総合で開催されました。参加STは4名でした。

<地域連携部>

- ・「第20回山梨県失語症者のつどい記念大会」が11月28日甲州市レストランシャンモリにて開催されました。山梨県知事をはじめ、関連団体からの来賓、東京からの友の会もお招きし、当事者を含め106名参加の記念大会にふさわしい内容でした。STの支援が大きな力となり、OTの体操やPTの和太鼓などボランティアのご協力と併せて立派な大会となりました。ご協力をありがとうございました。
- ・小児領域では特別支援教育委員会合同事業研修会が平成28年2月11日に開催される予定です。県特別支援教育体制強化事業としてこの3年間実績を上げていただいたSTの実践報告も予定されています。皆様のご参加をお待ちしています。

学術局

昨年は、学術局主催の講演会・研修会にご協力いただきありがとうございました。

本年も生涯学習プログラムの充実に努めて参りますので、会員の皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

<学術部>

*第4回 学術講演会を平成28年2月末～3月に開催予定

<研修部>

症例検討会

*第6回症例検討会

日 時：平成28年2月18日（木）

会 場：甲府市東公民館

発表者：萩原 由香先生（山梨リハビリテーション病院）

バイザー：赤池 洋先生（山梨大学医学部附属病院）

ミニ講義：赤池 洋先生（山梨大学医学部附属病院）

*第5回小児領域勉強会

日 時：2月予定

会 場：甲府共立診療所

内 容：特別教育支援事業に関する報告

<教育部>

第6回新卒者研修会（平成27年12月2日開催）をもって今年度の新卒者研修会を終了しました。

広報局

広報局では、「言語聴覚士」の仕事内容や「山梨県言語聴覚士会」の活動を多くの他団体や一般の方々に知って頂けるように今後もより一層、情報発信をしていきます。会員の皆様、今後とも広報活動にご協力宜しくお願い致します。

<広報部>

- ・広報部では広報グッズ（リーフレット、パネル、のぼり）の貸出を行っております。ご希望のある方は広報部部長赤池までお問い合わせください。

<ホームページ管理部>

- ・会報 web 版第33号が掲載されました。ホームページ上においてもご覧下さい。
- ・ホームページ上の賛助会員に「山梨リオン補聴器センター」様のバナーがかわりました。
- ・学術局の研修会や講演会をはじめ、各部署からのお知らせを更新しております。
- ・引き続き、会員からの推薦図書と臨床上の工夫を掲載しております。日々の臨床に役立つ内容が多く掲載されておりますのでどうぞご覧下さい。今後の更新内容に関してもご覧下さい。

<会報編集部>

- ・第34号 平成28年2月発行

編集後記

今号の県士会 NEWS には、昨年11月に開催されました第8回の学術大会をメインに各学会の参加報告が掲載されています。原稿の執筆にご協力して頂いた先生方本当にありがとうございました。

さて、去年は世界的にテロや紛争といった出来事があり、多くの人々が犠牲となりました。日本では、戦後70年という節目の年でした。平和の時代になり、日々何気なく過ごしていることが幸せなことだと改めて感じさせられました。

今年はブラジルのリオデジャネイロでオリンピックがあります。日本だけでなく、世界的に笑顔が溢れる年になりますよう祈っております。

一般社団法人山梨県言語聴覚士会ニュース

<発行所> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会

<発行人> 内山量史

<編集> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会 広報局会報編集部

石和温泉病院：坂井隆一

石和共立病院：鈴木千裕

一宮温泉病院：倉島雪乃

甲州リハビリテーション病院：武井徳子

甲府城南病院：中村晴江、廣瀬由紀

白根徳洲会病院：清水菜月

市立甲府病院：丸井章子

国立病院機構甲府病院：小松富美子

湯村温泉病院：山城瑛規

<事務局> 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科内

〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436

TEL 055(326)4126

FAX 055(326)4366

<発行日> 2016年2月1日